

職員の皆さんへ

例年より早い桜の開花によって、行楽ムードによる市内の賑わいがみられ、早くも春本番、そして新年度のスタートを迎えました。

さて、このたびの人事異動につきましては、「第二次定員適正化計画」の3年目を迎えることから、「縦割りを解消し、市民のニーズにあった組織に作り直す」ことと、「将来にわたる職員の減少などを見据えた組織のスリム化を図る」ことを目的に、市長就任後2度目の大胆な機構改編を行ない、職員お一人ひとりが持ち前の優れた個性を十分に発揮できるための適正配置を行いました。

特に今回は、新たに設置された「財務部」や「文化観光部」、「産業振興部」においては、市民ニーズと現場の業務に具体的に即応できるような狙いがありますし、「市民福祉部」や「建設部」は市民相談をワンストップで行なうことができるよう、よく有りがちな前例を踏襲するのではなく、新たな役割を自らが作り出すことにも期待しているところであります。

また今回、長崎県のご理解の下に更なる相互の人事交流を拡大し、本日付で産業振興部には渋谷隆英部長、建設部には池田圭一郎部長に、それぞれ着任していただくとともに、県農林部と県北振興局建設部へ各1名を派遣いたしました。これにより今後とも県との連携をさらに強化していきたいと思っています。

また本日付で新たに入庁され、大きな希望と決意を胸に採用された職員の皆さんに改めて申し上げます。

皆さんは既に心しておられるように、地方公務員としての自覚と全体の奉仕者としての責任感をしっかりと認識しながら、「市民の利益のために何をなすべきか」を常に心に銘じながら、着実な歩みの中で一日も早く平戸市の発展のための原動力となって頂くことを切に希望するものであります。

さて新年度は本市にとって様々な分野において大きな事業が予定されています。特に長崎がんばらんば国体の相撲競技や軟式野球競技の開催、世

界遺産登録への国内推薦枠への認定とこれに追い風となる世界遺産推進コンサートの開催、再生可能エネルギー推進大会の開催などは、県内外が注目する交流イベントといえますし、消防庁舎建設や（仮称）総合情報センター建設も大型事業として期待が寄せられています。さらに本日から観光交流ターミナルの供用開始や度島における「ふれあいセンター度島」の利用開始は今後のまちづくりにおいて、これをどう活用するかが試されることとなります。

私の二期目のスローガンに掲げた「市民が主役、行政は脇役によるまちづくり」は、すでに各方面で様々な取り組みが始まっていますが、これまで構築してきた市民の皆様との連携の枠組みを更に広げ、かつ強固なものに仕上げながら、与えられた職務の確かな遂行に全力を傾注していただきたいと思えます。

また本年度から全職員を対象に人事評価制度の試行運用を開始します。これは平成 24 年度から職員アンケートや検討委員会での協議を踏まえ、昨年度は管理・監督職を対象に試行実施したことを受けて実施するものです。

この運用結果を分析し、制度に関する今後の課題を明確化させ、制度の見直しなどを行い、平成 27 年度の本格実施を目指してまいります。

職員が入れ替われば、当然のことながら職場の雰囲気も変わります。各部局においては、今回の異動によって更なるチームワークづくりに励み、常に明るい職場環境の中で、それぞれのやる気と能力を引き出しあいながら、心機一転、市民の信託に応えられる体制づくりを構築する必要があります。

相変わらず人口減少傾向や長引く景気の低迷など直面する課題は簡単には解決できませんが、いずれの地方自治体も抱える悩みは同じであり、似たような条件の中で地域間競争に生き残らなければならない努力を強いられています。

その中でも、私たちの故郷・平戸市は、他に誇れる豊かな歴史や拡張高い文化、それに美しく恵み多い自然や、かくれキリシタンに象徴される祈りに根付いた強く情け深い人たちの優しさに秀でています。

この優位性を市民と共感・共有しながら、協働のためのチームづくりの実現のために、より多くの人から愛され、親しまれ、訪れたくなるまちづくりに向かって努力してまいりましょう。

以上、新年度における職員の皆さんの活躍を期待して、年度始めのことばといたします。

平成 26 年 4 月 1 日

平戸市長 黒 田 成 彦